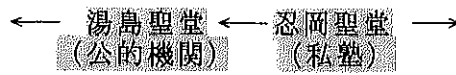


研究の背景 — 湯島聖堂及び関連美術史料の成立と流れ —

忍岡から湯島聖堂へ — 参考『聖堂略志』（太字は本書における研究テーマ）



寛永七年

林羅山、徳川家光より上野・忍岡に土地を拝領。私塾と書庫を建設。

寛永九年

林羅山、尾張藩主徳川義直の援助により、忍岡の私邸内に孔子廟を建立し、孔子像、四配像（顔子、孟子、曾子、子思）、祭器、義直直筆の「先聖殿」扁額の寄進を受ける。

元禄元年

狩野益信により《賢儒図像》一六枚が描かれ、先聖殿兩廡に掲げられる。

元禄三年

徳川綱吉、湯島聖堂建立を命令。

七月

綱吉直筆による「大成殿」扁額寄進。

元禄四年

湯島聖堂大成殿落成。

二月七日

忍岡の孔子廟より、湯島聖堂大成殿へ、孔子像及び四配像の像が遷座される。

二月一日

湯島聖堂で最初の釈奠が執り行われる。

（林鳳岡、大学頭に任じられる — 幕府の教育と祭祀を担当）

元禄一六年 一月二九日

地震による大火事で、聖堂類焼。《賢儒図像》が焼失。

宝永元年 一月

大成殿再建。狩野常信により、《賢儒図像扁額》が制作される。

（詳細な年譜に関しては、五六—五九頁を参照）

※『武江年表』（斎藤月岑 卷三 元禄四年 今井金吾校訂 ちくま学芸文庫）

正月、湯島に大聖殿、御普請成る。（上野よりうつる。此地、已前は林家の持にて、馬場にてありし也。此度、新に十哲乃神主を設けられ、七十二賢井先儒の像は、画工狩野洞雲、是を画く。二月に御遷座ありて、同十一日釈奠あり、豊島町は、此時聖堂の地、広がりしかば、今の所へ代地を給はりて移たる也。二月より相生橋を（古名、一口橋）昌平橋と改らる。（横島菜穂子）